

● 津田千枝子 型染 2014年4月26日・土 — 5月6日・火

Open 11:00 — 17:30 / Close 4月30日(水) / 作家在廊日 4月26日・27日・29日 5月3日・4日・5日・6日。

● 津田千枝子さん お話し会 4月27日(日) 16時より / 参加費 1,000円 (入館料を含みます)

ミャンマーの蓮布のお話や、型染のことなど伺います

● クロージングコンサート 5月6日(火) 16:30より / 参加費 1,500円 (入館料を含みます)

東京フィルハーモニー交響楽団コントラバス奏者、遠藤柗一郎さんの演奏を、津田さんとご一緒にお楽しみください。

お話し会、コンサートとも、お申し込みは… 電話 0465-24-7020 うつわ菜の花 (受付時間 11:00~18:00)

● 津田さんと、昨年9月にミャンマーを訪ねた。

インレー湖のインダー族は水の上で暮らす人々。

ずうーっと昔から織られている蓮布は、一本一本のあの蓮の茎からとる繊維でできるのです。糸にして織る現場を見に行った次第です。

1000m以上の高原にある湖、インレー湖。湖面のもやの中、ふと小さな帆先があらわれ、手先のきれいな舟のりの手によって、藻がつままれて運ばれてゆく。不思議といえば不思議な世界。そんな中を通過して蓮を織る所まで行ったのです。

インレー湖のドゥティシェンおばさん。この人の目はやっぱり素晴らしかった。イタリアのファッション界の巨匠ロコピアーナが、この3年で蓮布の本をつくった。彼もまた彼女から蓮布をわけてもらっている。もらいうけて翌日、もっとすごい布が届いたのです。その素晴らしさは、私が見ても感じられます。この世に、ここにしかない蓮の布なのです。

でももっと素晴らしいことに、津田さんはそれに型染を加え、ただそれだけでなく、何かもっと、魂なのか、あくなのかわかりませんが、人によりそのような布にする力をもっているのです。ぜひみに来てください。もちろん蓮布だけでなくアジアの布がならびますよ。

その型染がよいのです。

2014年4月9日 菜の花店主 ● たかはしいいち



津田千枝子プロフィール

1974年 東京芸術大学 美術学部絵画科卒業(日本画専攻、新創作春季展入選)

在学中から紅型を始め、卒業後、友禅を吉田勇四、藍建てを菅原匠、中島安夫、

型彫りを田所実、また工芸全般について内藤四郎の各氏に学ぶ

1979年—1980年 ニューヨーク在住

1987年 美術史家の夫に同行して、ヨーロッパの中世美術を訪ね歩く(2003年まで毎年)

1994年・1997年 インド・アーメダバード国立デザイン研究所 染織シンポジウムに参加

1999年 インド・グバネッシュワール 第3回国際野蚕学会で講演とワークショップを行う

2005年 インド・ラジャスタンの工房にて木版染を行う(以後毎年)

2010年 うつわ菜の花にて個展

2012年 桐朋学園大学講師退職

毎年、各地にて個展を開催



箱根菜の花展示室

開館時間 / 11:00—17:30 定休日 / 会期中水曜日

入館料 / 500円 (コーヒー or 抹茶 + お菓子付)

〒250-0311 神奈川県足柄下郡箱根町湯本351-2

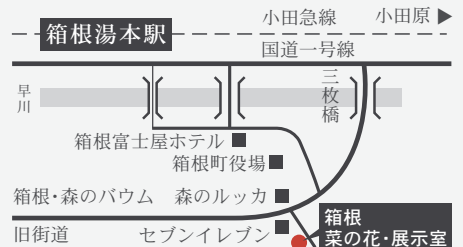
Tel. 0460-83-8166 [休館時連絡先] うつわ菜の花 Tel. 0465-24-7020

○ 自動車でお越しの方

国道一号線「三枚橋」信号から三枚橋を渡り、旧街道沿いセブンイレブン手前を左折100m上る。小田原厚 本道路・西湘バイパスをご利用の場合は、「箱根口インター」であり、国道一号を箱根方面へ、三枚橋を左折してください。三島方面より箱根新道でお越しの方は、「須雲川インター」が使えません。箱根新道料金所を過ぎ次の降り口「山崎インター」より国道一号線を箱根方面へお進みください。

○ 電車でお越しの方

箱根湯本駅を下車し富士屋ホテルへの橋を渡り箱根町役場方向に、進み、旧街道へ。湯本駅より徒歩10分です。



【次回ご案内】・5月17日(土)～5月25日(日) mon sakata 服 / うつわ菜の花 ・5月31日(土)～6月8日(日) 杉本光俊展 絵 / うつわ菜の花

協賛 / 和菓子菜の花



● 津田千枝子 型染

Tsuda Chieko Exhibition

2014年4月26日.土 — 5月6日.火

箱根菜の花展示室